

台風予報の図表示方法の指針

1. 目的

台風予報等の情報は、国民の生命及び財産の保全等の防災対策にとってきわめて重要である。本指針は、マスメディアを通して台風防災に必要な情報を利用者に誤解なく、わかりやすく、迅速に伝えるため、予報技術の進展及び情報内容の充実をふまえて、台風予報を図表示する際の一定の考え方を示す。

2. 図表示方法の指針

(1) 基本的要件

台風予報を図表示する際には、以下の要件を確保することを基本とする。

- ① 暴風に対して警戒が必要な範囲を示すこと。
- ② 台風進路予報についての誤差の範囲を示すこと。
- ③ 予報対象時刻を明示すること。
- ④ ①～③のことを誤解なく、わかりやすく表示すること。

(2) 具体的指針

① 実況部分の表示

- ・ 台風の中心位置(×印)、暴風域^{※1}及び強風域^{※2}を表示する。

② 予報部分の表示

- ・ 暴風警戒域^{※3}を表示する。
- ・ 予報円^{※4}を表示する。

③ 誤解なく、わかりやすい表示

複数の対象時刻の予報を一枚の図にまとめて表示する際は、以下のとおりとする。

- ・ 暴風警戒域を実線で、予報円を破線で表示する。
- ・ 各時刻の予報円に接する線を実線で表示する。
- ・ 予報円及び暴風警戒域は、各時刻の円が重なり合っ見えに

くい場合には、一部時刻の円の表示を省略できる。

- ・ 暴風警戒域は、さらに円が重なり合っ見えにくい場合には、各時刻の円の表示に代えて、これら円の通過する範囲を実線で表示できる。

④ 付加的な情報の表示

- ・ 予報円の中心点を表示できる。
- ・ 予報円の中心点を結ぶ線を破線で表示できる。
- ・ ただし、台風が中心がこの点や線上を進むかのような誤解を招かないよう、適切な解説を行うこと。例えば、「予報には誤差があり、台風が中心が予報円の中心点やそれを結ぶ線の上を必ず通るとは限らないことに留意願います。」と解説する。

※1	暴風域:平均風速でおおむね毎秒25m以上の風が吹いていると考えられる範囲
※2	強風域:平均風速でおおむね毎秒15m以上の風が吹いていると考えられる範囲
※3	暴風警戒域:台風が中心が予報円内に進んだ場合に暴風域に入るおそれのある範囲
※4	予報円:台風が中心が70%の確率で入ると予想される範囲

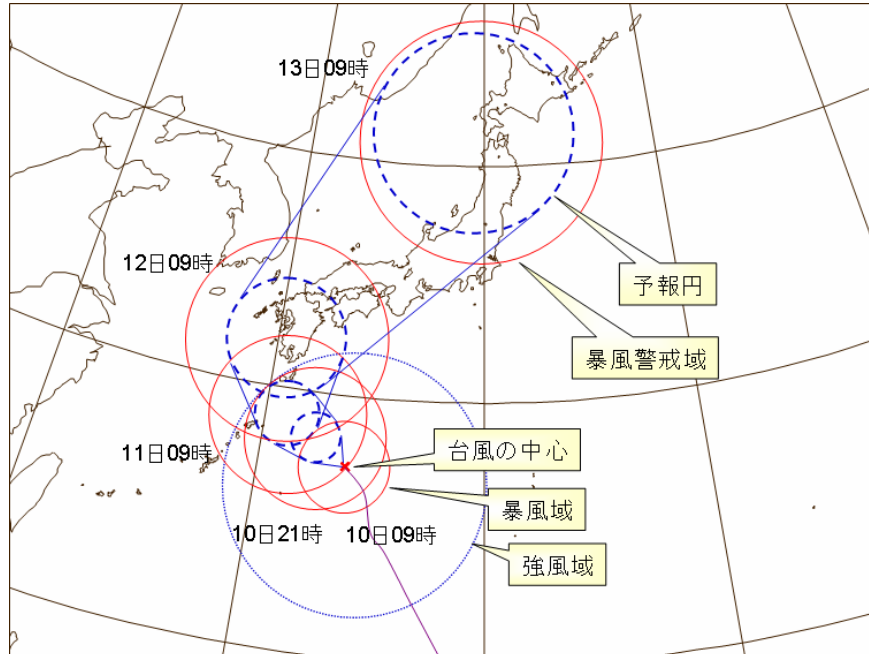
3. その他の情報の活用における留意点

台風時における細かな防災対応判断を支援する情報として、72時間先までの時間帯に暴風域に入る確率を示す「暴風域に入る確率の面的情報」を提供する。

この情報を図表示する際には、以下に留意する。

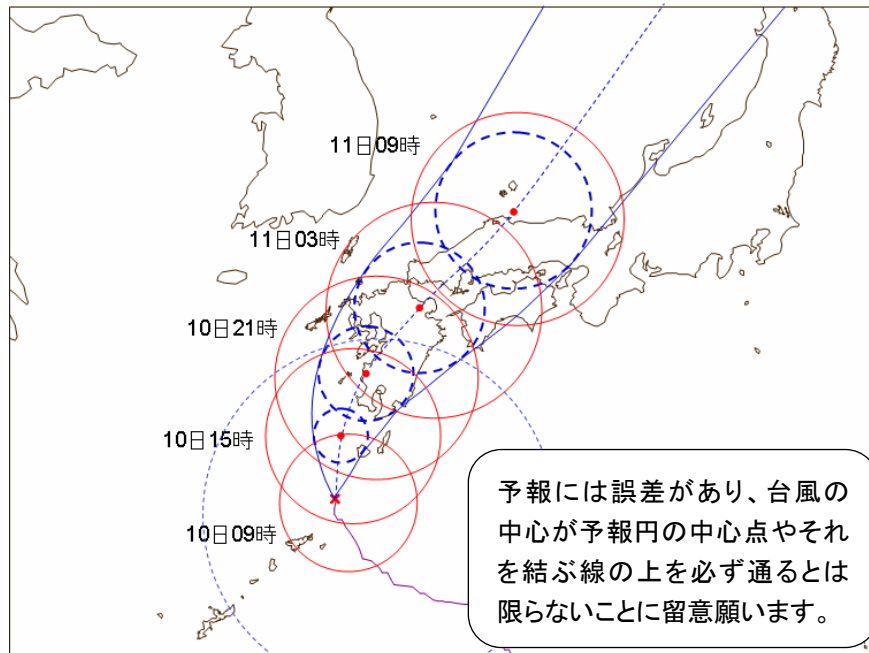
- ・ 当面、暴風警戒域を用いた図表示の追加的情報として表示する。
- ・ 予報対象時刻が後になるほど確率が低くなるのが、台風の勢力の弱まりとの誤解を招かないよう、適切な解説を行う。例えば、「現時点で確率の値が小さい地域でも、今後台風の接近により暴風域に入る確率の値が大きくなります。最新の予報をご利用ください。」と解説する。

① 72時間(3日間)までの予報を表示する場合の表示例



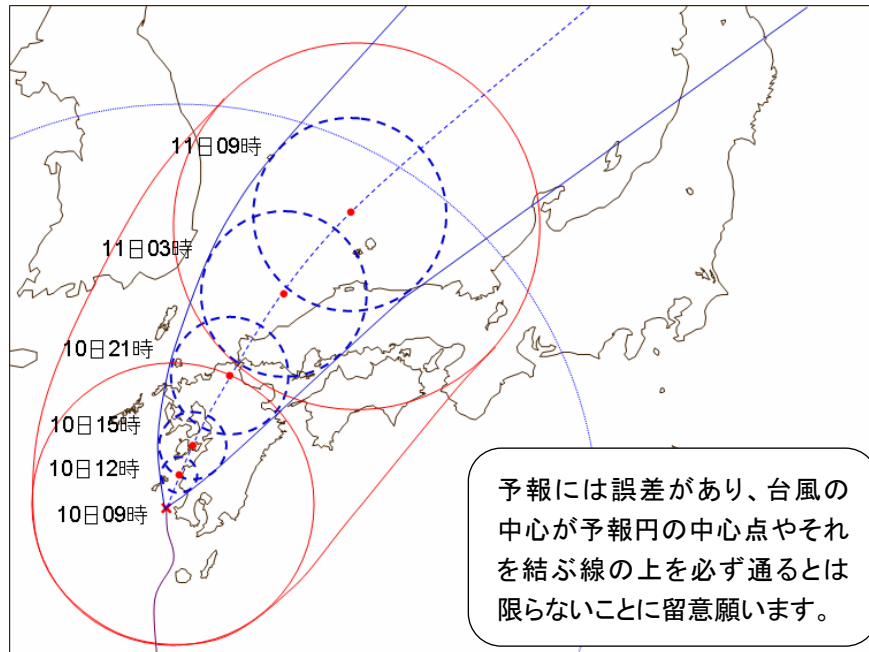
※3~9時間予報、15~21時間予報の表示を省略。

② 24時間までの予報に焦点を当てて表示する場合の表示例



※3, 9, 15, 21時間予報を省略、48時間以降は範囲外。

③ 暴風警戒域が込み合う場合の表示例



※ 9, 15, 21時間予報を省略、48時間以降は範囲外。

④ 「暴風域に入る確率の面的情報」の場合

